▲ポストがみつかって喜びいさんで駆け寄る子供たち。

▲寒風をついて、雄大な阿蘇の自然の中で老若男女800人がゲームを楽しんだ。

▲個人クラスのゴール。このクラスには全国各地からベテランが参加、秒単位で勝負を競った。

寒風の阿蘇につどう八百人

――オリエンテーリング九州大会――

五十一年度オリエンテーリング九州大会は十一月十四日阿蘇郡一の宮町小堀牧を中心に開かれ、東京・名古屋などの遠来組を含め八百人が参加した。競技は個人クラスとグループによる徒歩OLの二種目で、個人クラスには全国各地からOLのベテランが多数参加、雄大な阿蘇の自然の中で秒を争った。

一方、グループによる徒歩OLは家族ずれ、友人グループなどでチーム編成、コンパス、地図片手に吹き荒れる寒風をついて、なごやかにゲームを楽しんでいた。

▲チェックカード丹念に書き込み、次のポストをめざす。

みどり豊かな熊本を

熊本営林局長
光本政光

ふるさとづくりを県政の大きな柱にしておられる熊本県、しかも森の都の熊本市に、九州五十四万ヘクタールの国有林をおあずかりしている役所熊本営林局が所在することは私として本当にありがたいと考えています。

私は福岡県の出身ですが、昭和二十一年、山役人として最初の勤務地がこの営林局でしたので、熊本というところに深い愛着を覚えるものです。緑の少い東京、又信州の長野、山陰の鳥取、東北の青森、岩手と、雪の多い地方に十年余も過ごして九州にまいりますと、いよいよ九州はいいところだという感じが強くなります。温暖多雨で日の光も溢れるばかりです。

熊本県は県土の六割強が森林です。小国林業、球磨林業等、全国に名の通った有名林業地を擁し、また朝のテレビで紹介されている阿蘇の大草原、肥後六花等の印象からも熊本県は緑に溢れていなければなりません。

熊本県内には約六万ヘクタールの国有林がありますが、この経営には光と水と暖かさに恵まれた好条件をフルに活用して国民全体に役立てるとともに県民の皆様にも喜んでいただくよう努力してまいりたいと考えています。

森林を扱うことを天職としていて感ずることは、何事もできるだけ「長期」の、そしてできるだけ「はっきりとした計画」が必要であるということです。

森林は皆様ご承知のように植えてから伐るまで少くとも四十年を要します。しかしどのような土地でも苗木を植えて四十年たてば使える森林になるものではありません。

森林の力を支えているものは土壌ですが、土壌は五十年、百年で作れるものではなく、長い年月を経過してできるものです。基岩が一センチメートルの土壌となるには百年を要するといわれています。従って深さ一メートルの土壌となるには一万年を要することになります。

瀬戸内海に面した地域は、現在土壌の力の弱い地域になっていますが、昔は肥沃な土壌と立派森林な地帯でした。ところが、砂鉄から鉄をつくる燃料、製塩の燃料として短い間隔でくりかえし伐採されたことと、牛の放牧によって土壌が瘦悪となり表土も流出して現在のようになったといわれています。

ドイツは林業の先進国とされ立派な森林が国内各地にありますが、土地利用については重大な失敗を経験しています。北ドイツ一帯は〝ハイデ〟つまり荒野と呼ばれる区域が大きく拡がっていますが、大昔、中世の時代は立派な橅(ぶな)や楢(なら)等の森林地帯であったそうです。それが、農業を中心とする産業の発達にともない、羊や牛馬の林内放牧が盛んに行われるようになって土壌が固く締ってきたため、森林の取扱いにも悪い影響をあたえるようになり、それがくり返されて結局現在のような力のない土壌〝ハイデ〟になったといわれています。

そういう経験もあってドイツ人は森を非常に大切にします。テレビ等でみても都市のすぐ近くに大面積の森林があり、それも大半は人工林ですが、植えて育てて伐るまでの期間が、百年、百五十年と永いので天然林のようにみえる森林が経営されています。

木材の自給率は食糧自給率の約半分三五パーセントが現況で、残り六十五パーセントは外国材を輸入していますが、外材の輸入も外国のいろいろな事情もありいつまでも続けるわけにはまいりません。

しかも、現在実行されている全国森林計画が当初の計画通り達成されても木材自給率は六二パーセントまで上げるのが精一杯のようです。われわれ日本人は、四つの島に一億一千万人住んでいかなければならないこと、そしてその一人一人が年間一立方メートルの木材を消費しており、将来とも消費しなければなりません。さらには、「長期計画」という言葉を考えると、すぐ私の頭に浮かぶのは水の問題です。

北九州市、長崎市、鹿児島市はすでに水の取扱いが深刻な問題として取りあげられています。それにひきかえ熊本市はじめ県内各市の多くは豊かな水源を擁し、又水源林造成等の施策も進められており、皆さんのご努力に対しては心から敬意を表するものであります。

水が不足している故郷ではイメージダウンですし、水がなくては緑は生まれないことはいうまでもありません。

遠い将来まで見通した、しかもはっきりした計算にたって、人々の生活と自然が一体となった緑豊かな故郷熊本を作り上げていくことにお役にたちたいと心から願っています。